

(様式1)

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

「強い意志と豊かな情操を身に付けた人間を育てる」

- ・主体的に環境に関わり、その意志を実現しようとする児童生徒
 - ・もてる力を十分に生かして、必要な支援の下に自立的な生活を営もうとする児童生徒
 - ・趣味や生きがいのある、心豊かな生活を実践する児童生徒
- ＜校訓＞ 明るく、仲よく、たくましく

2 学校の特徴

- ・本校は肢体不自由のある児童生徒に対する教育を行うための特別支援学校である。小学部・中学部・高等部の3学部を設置しており、医療施設（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター）に隣接している。また、高等部こまどり分教室が高岡市立こまどり支援学校に併置されている。
- ・在籍している児童生徒は、隣接医療施設又は高岡市きずな子ども発達支援センターで肢体不自由の治療や訓練を受けており、在籍児童生徒の25%が医療施設に入所している。
- ・児童生徒の通学の形態は、隣接医療施設からの通学与保護者送迎による自宅からの通学である。
- ・肢体不自由の単一障害から常時医療的ケアが必要な者など、在籍児童生徒の障害は多様化しており、一人一人の教育的ニーズに対応するため、4種類の教育課程を編成している。
- ・近隣の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流を計画的・継続的に行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・障害の程度、発達段階が大きく異なる児童生徒が在籍している。また、隣接医療施設に入所して治療や訓練を受け、数か月から数年後に前籍校へ戻る児童生徒の転出入が年間少なからずある。
- ・在籍児童生徒の約8割以上が、肢体不自由の程度が重度であり、肢体不自由と知的障害等が重複している。その約4割が医療的ケア児であり、児童生徒の障害の重度・重複化が進んでいる。
- ・児童生徒一人一人の実態やニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・家庭・隣接医療施設・関係機関と協力して個別の教育支援計画の作成や情報の共有、キャリア教育等に取り組んでいる。
- ・児童生徒の健康の保持や学力保障、進路指導等の充実を図るため、肢体不自由教育に関する専門性の向上のための研修を計画的に実施している。
- ・中新川・滑川地域の幼・保・認定こども園・小・中・高等学校の特別支援教育の推進及び県内の肢体不自由児の指導に関して積極的に支援している。

(2) 課題

- ・個に応じた教育課程編成による学力の保障
- ・障害の状態や発達の程度に配慮した健康の保持並びに安全に配慮した支援体制の充実
- ・卒業後を見通した進路指導の充実
- ・隣接医療機関と連携した教育の推進
- ・肢体不自由教育に関する専門性の向上
- ・特別支援教育のセンター的機能の充実
- ・新型コロナウイルス感染症等に対応したリモート授業等を実施するための環境整備

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 【重点1】	目標	<ul style="list-style-type: none">・ キャリア教育を取り入れた学習活動の充実を図る。・ ICTを効果的に活用し、児童生徒の学びの充実につながる交流学习を実施する。・ 基礎学力や基礎的な生活習慣の定着を図るとともに、社会や身の回りの事象への関心を高め、集団生活、進学先や社会生活に適応する態度や技能を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・ 学級活動や総合的な学習の時間、生活単元学習において一人一人の目標について振り返る機会を設定する。・ 近隣の学校とWeb会議システムを用いた交流学习を実施する。・ 個々の児童生徒の教育的ニーズや障害の状況に沿った個別の指導計画を作成するとともに、一人一人の実態に応じた教材・教具を工夫し、実践する。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、環境や体制を整える。・ 児童生徒の健康管理を推進し、安心して安全な医療的ケア等を実施する。・ 児童生徒の災害に対する意識を高めるとともに、教職員の知識・技能の向上を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・ 健康に関する一人一人の実態や配慮事項について把握し、状態の変化を早期に発見し、適切な対応ができるようにする。・ 緊急時に迅速で適切な対応ができるように緊急対応訓練等を実施する。また、健康・安全に関する講習会を計画的に開催する。・ 火災、地震、不審者侵入時を想定した避難訓練を実施し、児童生徒一人一人の安全確保や避難の方法を検討する。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none">・ 教員や保護者を対象とした福祉サービスの制度や各サービスの内容等を知るための進路に関する学習回答を開催する。・ 自己を理解し、生き方に関する指導を重視し、児童生徒一人一人が主体的に進路について考えることができるよう支援する。・ 進路支援体制の確立を図るとともに、保護者及び関係機関等と連携し、それぞれのニーズに応じた進路支援を行う。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・ 教員や保護者に進路に関する調査を行い、どのような情報が必要かを把握したうえで、ニーズに合った研修を実施する。・ 社会自立・参加についての理解を深め、生活に関わる基礎的な能力を習得できるように、各学部が連携してキャリア発達を促す教育を推進する。・ 保護者・関係機関等との連携を図ることにより、地域生活へ円滑に移行できるように、ネットワークづくりを推進しながら中・長期的な支援体制を整える。
4	特別活動 【重点2】	目標	<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒の読書環境を整備し、多くの図書に親しめるようにする。・ ボッチャ競技の普及を推進し、児童生徒のスポーツを通じた交流を深める。・ 児童生徒会活動を通して児童生徒の自主性や集団の一員としての自覚を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none">・ 移動文庫を設置し、学部のニーズに応じた図書を排架する。「お話を聞く会」などの図書に関連した行事を開催したり、図書だよりや図書室前の掲示を活用したりして、図書に関する啓発を行う。また、読書カードを活用し児童生徒の読書活動の推進を図る。・ 本校の卒業生であるパラリンピックメダリストを講師として招いたり、ボッチャの大会等を開催したりする。また「全国ボッチャ選抜甲子園」の出場を目指す。・ 執行部を中心に児童生徒会活動の改善について話し合う機会を設定する。

5	その他 【重点3】	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上に関する校内研修の充実を図る。 ・コロナ禍におけるPTA活動の在り方を検討する。 ・地域の特別支援学校のセンター的機能としての役割を果たすために、幼・保・認定こども園並びに小・中・高等学校への支援の充実を図る。 ・情報管理の徹底を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育に関する専門性を高めるために外部の専門家を招へいし、障害種別研修等を実施する。教員の研修ニーズを把握し、指導内容、指導方法を学び合う機会を設定する。 ・PTA行事の代替する活動や実施方法を検討し、コロナ禍にあっても保護者が情報共有・交換できる場を設定する。 ・中新川・滑川地域（滑川市、上市町、立山町、舟橋村）のセンター校として幼・保・認定こども園並びに小・中・高等学校へ教育相談リーフレットを配付し、支援内容の周知を図る。 ・教職員を対象にした情報モラルやセキュリティについての研修会等を計画的に実施する。

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 高志支援学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動 —中学部—	
重点課題	キャリア教育を取り入れた学習活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・進路に関する学習は、主に学級活動、生活単元学習、総合的な学習の時間に行っている。1年生は、自己の特性や性格等について理解を深める学習を、2年生は、近隣施設の見学や体験学習を通して学校卒業後の生活について考える学習を、3年生は、高等部の体験入学等に参加して中学部卒業後の進路を決定するための学習を行っている。また、全学年での各学期や行事では、目標設定と振り返りを行って、自身の変容や成長を実感したり、新たな自分の可能性に気付いたりできるようにしている。・目標設定と振り返りの方法は、ワークシートに記録する学級もあれば、タブレット端末を使って動画や写真を用いて振り返る学級もある。また、記録等は年度末に家庭に持ち帰るため、昨年度の記録を振り返ったり、それぞれの学年ごとの自身の変化を確認したりすることが難しい。	
達成目標	「振り返りノート」を作成して、自身の変容や成長を振り返る回数	生徒一人当たり 5回以上
	作成した「振り返りノート」を次年度に引き継ぐ	生徒全員
方 策	<ul style="list-style-type: none">・新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりすることができるように、行事や進路に関する学習等の際に、生徒が学習の目標を立て、学習したことを振り返る活動を計画的に実施する。・生徒一人一人の実態に応じた自己評価の工夫を行う。・身近な人から認められる機会が得られるよう、保護者や教員等からコメントを得られる工夫を行う。・次年度に引き継ぐよう、作成した「振り返りノート」はファイルに綴じ、学年や学部を超えた学びの蓄積を確認できるようにする。・12月に教員で「振り返りノート」の成果と課題について意見を交換する。	

令和5年度 高志支援学校アクションプラン —2—

重点項目	特別活動 —情報教育部図書—	
重点課題	児童生徒への読書推進活動	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、新刊図書を約70冊購入している。 ・図書はジャンルごとに排架されており、目的の図書を見つけやすい。 ・図書室は、校内のほぼ中心部の立ち寄りやすい位置にあり、比較的小中学部は利用しやすい場所にある。しかし、高等部棟からは離れており、高等部の利用者は少ない状況にある。併せて、近年医療的ケアの児童生徒の比率が増えていることから、児童生徒が図書室を利用する機会が少ない。 ・中学部・高等部の休憩時間は5分であり、移動にも時間がかかることから、図書室の利用は授業時間中がほとんどである。 ・1か月に一冊も借りない児童生徒が全体の約27%、一冊以下の児童生徒が65%いる。(本校：令和4年度調べ) 	
達成目標	校内読書月間（1か月）に一冊以上借りた児童生徒の割合	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室まで来なくても図書を利用できるように、移動文庫を設置する。設置にあたっては、学部の授業や行事に関連したテーマの本を排架できるよう事前に学部の希望を聞く。 ・児童生徒の多様な実態に応じて図書を活用できるように、複数のデジタル図書の入った共有タブレットを図書室と移動文庫に置き、各自のタブレットにダウンロードできるようにする。 ・秋に「本祭り」を企画し、新刊紹介やパネルの設置などを行い、図書室を利用したくなるような環境を整える。 ・校内読書月間に合わせ、おすすめの本を紹介したり、読書に親しむ写真を各学級から一枚程度募集したりして、掲示する。 ・本を好きになることができるように、定期的に「本と出会う集会」を開催し、読み聞かせや本にまつわる話などを聞く機会を設ける。 	

令和5年度 高志支援学校アクションプラン —3—

重点項目	その他 —研修部—	
重点課題	教員の授業力向上に関する校内研修	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校の児童生徒の障害の状況や実態に合わせて、指導（授業）を行うには、まず、障害の状況や特性及び心身の発達段階等を的確に把握することが必要であり、毎年、外部の専門家から対象児童生徒の実態把握の視点や支援方法等について指導助言を受ける研修会を実施している。 例年、教員の授業力向上を図る校内研修として、研究授業を行い、対象児童生徒に関わる教員で、実態、指導内容・方法、学習評価について検討して、授業改善に取り組んでいる。 昨年度末の授業実践・授業改善に関するアンケートでは、「目標達成に向けた学習内容を選定できたか」や「学習評価を基に授業改善の視点を導き出すことができたか」の問いに、「できた」「少しできた」と回答した教員が70%いた。 昨年度末の学校課題に関するアンケートでは、「実態把握が的確かどうか不安である」「自分の授業を客観的に見たい」「もっと教員間で情報交換ができるとよい」等の意見があった。 今回の学習指導要領の改訂で期待される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業実践・授業改善を積み重ね、授業力の向上を図る必要がある。 	
達成目標	授業力向上に関する研修会の実施（全体研修会2回、グループ研修5回×9グループ、障害種別研修会各学部1回）	のべ51回以上
	事後アンケートで、授業の目標が「達成できた」「一部達成できた」と答えた教員の割合	85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 九つの研究グループ（小学部3、中学部2、高等部3、分教室1）を編成し、PDCAサイクル2回以上の研究授業を実施し、授業計画・評価・授業改善のための研修会を5回以上行う。 全体研修会を2回実施して、授業力向上に関する校内研修の進め方について共通理解を図る。また、取組の状況を報告し合い、成果と課題を共有する。 外部の専門家から対象児童生徒の実態把握と支援方法について指導助言を受ける研修会（障害種別研修会）を各学部1回実施する。 事後アンケートを実施し、研修全体及び自身の取組の成果と反省、どのような取組が授業力の向上につながったか等を確認する。 	